龍谷大学アジア仏教文化研究センター ワーキングペーパー

No. 11-08（2012 年 1 月 31 日）

ハイデルベルク大学東亜藝術史研究所訪問記

―「中国における仏教石刻」プロジェクトの概要―

倉本尚徳

（龍谷大学アジア仏教文化研究センター博士研究員）

【キーワード】

中国、仏教石刻、ハイデルベルク大学東亜藝術史研究所、安岳臥佛院、山東摩崖刻経、造像

1 調査の概要

期日　　：2011 年 7 月 27 日（水）～8 月 13 日（土）

調査者　：倉本尚徳（龍谷大学アジア仏教文化研究センター博士研究員）

調査目的：ドイツ・ハイデルベルク大学東亜藝術史研究所の仏教石刻関連資料の所蔵調査、及びレダローゼ教授の大型プロジェクト「**Buddhist Stone Inscriptions in China**（中国における仏教石刻）」の研究方法を学び、プロジェクトのメンバーとの学術交流を行う。

調査日程：

7 月 27 日　関西国際空港発
ドイツ・フランクフルト国際空港着・ハイデルベルクにタクシーで移動。

7 月 28 日　所蔵資料調査・プロジェクト研究員との作業の打ち合わせ

7 月 29 日～31 日：唐代安岳臥佛院の刻經の翻刻作業を共同で行う。

8 月 1～3 日：北朝時代のいくつかの造像碑銘の英訳作業を共同で行う。

8 月 4 日：プロジェクトの研究会にて北周陳海龍造像碑に関する研究発表を行う。

8 月 5～10 日：北朝時代のいくつかの造像碑銘の英訳作業を共同で行う。

8 月 11 日：シュツットガルト・リンデン博物館所蔵東魏造像碑の調査

8 月 12 日：ドイツ・フランクフルト国際空港発

8 月 13 日：関西国際空港着

2　「中国における仏教石刻」プロジェクトについて

龍谷大学アジア仏教文化研究センターのユニット３（東アジア研究班）では、仏教の地域性や多様性を明らかにするため、現地に残された仏教石刻を主要な研究対象の一つとしている。また、中国の佛教石刻を一つの材料として、時間と空間の把握を容易にするタイムマップの作成も検討中である。今回、私の研究出張の主要な目的は、ドイツのハイデルベルク大学東亜藝術史研究所において 2005 年から行われている長期大型プロジェクト「**Buddhist Stone Inscriptions in China**(中国における仏教石刻)」の所蔵資料調査、そしてその研究手法を学ぶこと、プロジェクトのメンバーとの学術交流を行うことであった。ただ予想に反して、所蔵資料に関しては、大部分がデジタル形式で保存されており、十分にその全容を把握することは今回できなかった。



ハイデルベルク旧市街の遠景

ハイデルベルク大学はドイツにおいて最も歴史が古く、かつ最も有名な大学であり、ノーベル賞受賞者も多く輩出している。ハイデルベルク科学アカデミーにおける当プロジェクトのリーダーはレダローゼ(Lothar Ledderose)教授である。レダローゼ教授は 1942 年生まれ、米芾の研究などで有名な中国美術史研究の世界的権威であり、米 2005 年に人文系で最も栄誉ある賞の一つであるバルザン賞を受賞した。氏は、1971-72 年には台湾の故宮博物院で翻訳作業に従事し、1973-75 年には、東京大学東洋文化研究所に研究員として滞在し、中国語はもちろんのこと、日本語も堪能である。現在このプロジェクトの中心



東亜藝術史研究所のオフィス

メンバーとなっているのはClaudia Wenzel　とSueyling　Tsai(蔡穂玲)の両博士であり、筆者の滞在期間中、この両氏には、様々な面で大変お世話になった。

プロジェクトの拠点はハイデルベルク大学東亜藝術史研究所にある。ハイデルベルク大学は日本の大学キャンパスのようにキャンパスのなかに集中して大学の建物が存在するのではなく、各学部学科の建物が旧市街の中に散在しており、東亜藝術史研究所のこのプロジェクトの拠点も街の中心街に面した建物の三階にある(写真参照)。

このプロジェクトの目的は、中国における仏教石刻の完全かつ体系的な資料を作成することである。インドに端を発する仏教は、この時代のこの地において、断崖や大きな石に漢訳仏典を刻みこみ、また石碑と石窟寺院の融合もみられるなど、いわゆる、「仏教の中国化」の様相を呈した。仏教石刻は、この「仏教の中国化」の問題としても重要な研究テーマである。特に単に文献研究としてだけではなく、銘文の字体や銘文の刻まれた位置などにも重要な意味があり、幅広い観点からの考察が必要な学際的テーマでもある。

そうした資料的性格もあり、このプロジェクトの一つの特徴は、山東や四川の石刻に関して、従来の文献的手法に加え、カールスルーエの応用科学大学の地理情報部の研究者の協力により、実地調査において専門的な測量を行い、デジタルマップや3D画像技術を採り入れ、石刻の置かれた地理的情報、あるいは文字などの画像情報が容易に把握できるようにしていることであり、特に山東省の北朝末期の摩崖刻経の研究において顕著な成果をあげている。

筆者も滞在期間中、現在進められている、四川省安岳臥佛院の唐代石経の翻刻作業に少し参加させていただいたが、仏典のテキストと刻まれた文字画像、さらにその刻まれた空間的配置がパソコンの画面上でひとめでわかるようになっており、テキストだけからは困難であった資料の全体的把握に成功していると言える。



山東省崗山の仏教石刻

また、中国や日本の研究者との緊密な連携もこのプロジェクトの特徴であり、中国からは頼非や張總といった、この分野における有名な研究者の招聘や、国際シンポジウムの開催、さらに中国の現地研究者との共同実地調査も行っている。今回筆者もその国際交流の一環として招かれたのであり、プロジェクトのメンバーとの小規模な研究会において、『大通方廣經』の佛名が見える陳海龍造像碑に関する学術発表を行った。

以上、ハイデルベルク東亜藝術史研究所で行われている中国仏教石刻に関する研究プロジェクトは、国外研究者との積極的な交流を行い、また、文字資料にとどまらない画像情報などをデジタル資料として生かしている点、当センターの今後の研究活動においても大いに参考となるものであった。

なお、山東省の北朝時代の摩崖刻経を中心とした仏教石刻については、このプロジェクトにおける研究成果をまとめた報告書を出版準備中とのことである。

3　リンデン博物館所蔵東魏造像について

筆者の滞在期間中、北朝時代の仏教造像がハイデルベルクから電車で2、3時間ほどのシュツットガルトのリンデン博物館に所蔵されていると聞き、その調査のためプロジェクト研究員蔡穂玲氏とともに博物館を訪問した。リンデン博物館は、ドイツでも大きい民俗博物館の一つに数えられており、ヨーロッパ以外の、アメリカ、南洋、アフリカ、イスラム東洋、東南アジアにおける民族と文化に関する展示がなされているが、中国の文物も相当数展示されている。



リンデン博物館

今回筆者が調査した造像は、高さ179cm、東魏元象元年（538）の紀年を有し、なおかつ「東燕令」という、現在の河南省延津県の東北に位置する県の長官としての肩書を有する者がその供養者名に見え、年代と地理的情報がわかるものである。材質は石灰岩で、造形も当地域によくみられる一光三尊像である（写真参照）。この像に関しては、SASSMANN Manuel." Eine buddhistische Votiv-Stele und ihr religiöser Kontext." *Tribus* 58, (2009)

pp.111-116 において簡単な紹介と願文部分の移録がなされているが、いまだ供養者名などの造像全体については、移録がなされていない。そこで今回、銘文の全文の移録を各面ごとに提示する。



リンデン博物館蔵東魏元象元年造像

背面下部に刻まれた願文によれば、この造像は、呂猛虎ら八十人がともに「邑儀」を作り、身の無常や、財産が自分のものではないことを知りそれぞれが財を出し合ってこの像を造り、路傍の目立つ場所に安置したという。皇帝陛下から「天下合生(含生か？)之類」、つまり衆生までの菩提心が日々増すことを願い、弥勒の三會に会い、三塗の苦難を逃れることを願っている。また、像の右側上部に「治地普薩呂楊買」とあるのが注目され、「治地普薩」は「治地菩薩」のことだと思われるが、これは、菩薩の修行項目、あるいは、菩薩の階梯に関係するもので、『放光般若経』、『大品般若経』、『華厳経』、その他いくつかの仏典に見える。例えば、『菩薩本業経』十地品には、「何謂治地。菩薩法住、有十事、以次學。一念人善、二淨潔心、三柔軟意、四安靜志、五常布施、六行慈愛、七利天下、八助平均、九視彼如己、十敬人如師。復有十學。當多諷經、當遠鄉土、當近明師、當學善言、當知時、當精進、當入要、當曉行、當不忘、當安志、是為次第治地之行。」(T10:450a)と菩薩の修行項目が示される。一方『菩薩瓔珞本業経』賢聖学観品には、「佛子、汝先言名字者、所謂銅寶瓔珞。菩薩字者、所謂習性種中有十人。其名發心住菩薩、治地菩薩、修行菩薩、生貴菩薩、方便具足菩薩、正心菩薩、不退菩薩、童真菩薩、法王子菩薩、灌頂菩薩。」(T24:1012c)とあり、習性種(十住)の菩薩の第二が治地菩薩である。これは、「菩薩主」などの「主」の字がないことから、これは菩薩像の出資者ではなく、自ら菩薩としての自覺を持った者であったと考えることができよう。

東魏元象元年造像録文

【背面】

比丘僧覺海

比丘僧道津　　比丘僧智璨

思唯佛主呂解愁　　比丘法湛　　天宮主

唯□呂和穆　　邑子呂輔伯　　邑子蒲寧　　邑子呂曇貴　　邑子王榮族　　邑子任龍

唯那呂定歡　　邑子呂文樹　　邑子慕容敬延　　邑子趙長遵　　邑子張臺　　邑子郭黒奴

都唯那呂僧明　　施地主呂文儀　　邑子呂阿木　　邑子尚小虎　　邑子趙遵伯　　邑子呂保　　邑子呂桃奉

香火供養主楊桃誕　　邑子張小国　　邑子馮法陵　　邑子呂定族　　邑子呂世榮

都唯那呂猛虎　　三佛主慕容敬延　　邑子張定族　　邑子張元珎　　邑子呂相周　　邑子張乱族

邑子呂甑生　　邑子呂解愁　　邑子巍廣業　　邑子申屠法位

開佛光明主　　皇帝陛下

比丘僧善□　　齋主東燕　　邑子呂衆歡　　邑子呂伯明　　邑子呂曇勝　　邑子趙元昌　　邑子耿方

令呂方興　　唯那呂多侯？　　邑子呂託景　　邑子呂法和　　邑子呂示和　　邑子許慶賓　　邑子呂元景

唯那□休祺　　邑子呂法則

大魏元象元
年歳在戊午
五月己未朔
廿日戊寅佛
弟子呂猛虎
等八十人共
作邑儀知身
无常財非己
有冥運難會
咸割家珎共
造石象一區
在於路左顯
望之處上為
有願合邑之
人七世父母
因緣眷屬天
下合生之類
道心日隆値
弥勒三會願
離三徒苦難
願ㇾ從心

【台座正面】

大像主呂脩成

都邑主楊陽仁

【左側】

邑子蒲悅　邑子呂僧樹　邑子賀拔　邑子魏輔淑　邑子劉敬先　邑子白樹　邑子閻要和　邑子呂桃束　邑子張龍歡　邑子尚榮始　邑子武慶喜　菩薩主呂迴敬

【右側】

邑子馮遵　治地普薩呂楊買　邑子呂桃根　□子閻元和　邑子楊小德　邑子楊景嵩　邑子呂蓋族　邑子呂榮顯　邑子姜市奴　邑子呂元和　邑子席興孫　菩薩主張長生